

「みんなちがってみんないい」社会を目指そうと、2学期終業式の式辞で述べました。そのために必要なのは、自分事とするための創造力や正しい情報を集めて誰かと吟味し、自身で判断や行動が出来るように心がけること。そして、何よりも言葉を大切にするとともに、思いや考えのやり取りをする時はドッジボールではなくキャッチボールにしよう、とも伝えました。が、一つ伝え忘れたことに気付いたので、ここに記すことにします。

「みんなちがってみんないい」社会ってどんな社会でしょうか、という問いです。あまりに「そもそもの問い」なので、ハア？と思わずに一緒に考えてみてください。あの人はいい人や、のいい人ってどんな人でしょうか。また、うちの学校はいい学校や、のいい学校ってどんな学校ですか。そして、いい社会ってどんな社会を皆さんは思い浮かべますか。

言うまでもなく、あの人やうちの学校そして私たちが住まう社会で「いい」というのは、各人によって微妙に異なります。完全に一致する「いい」がきつとないのは、十人十色こそが「みんなちがってみんないい」わけですから、当然と言えば当然です。

それでもなお、共通項は必ずあるはずです。私は、「みんなちがってみんないい」社会を作り出すのに欠かすことが出来ないのは、自分の生き方を自由に選べる社会であること、そして互いの違いを認め合える社会であることだと思います。残念ながら私が知る限り、まだこのような社会は世界中どこにもありません。だからこそ、みんなで作っていくことが大切だと思いますし、未来を担う皆さんこそがその中心にいてほしいと願っています。

令和5年がスタートしました。

平等や公平そして公正という言葉が大きな声で叫ばれず、当たり前そこに存在する社会。その社会は誰かが作ってくれるのではなく、自分達一人一人で作るのだと改めて思います。今年が「いい」年になるよう、自分事としての精一杯の毎日を、互いに積み重ねましょう。